文部省選定

優秀映画鑑賞会推薦

民俗芸能の心

# 端縫(はぬ)いのゆめ

## ——西馬音内(にしもない)盆踊り——

●秋田県雄勝郡羽後町。その中心に西馬音内（にしもない）がある。

みちのくの冬は、１年のおよそ３分の１が深い雪のなか……。西馬音内の冬も長い。人びとは雪のなかで働き、語りあい、くらす。そして明るい夏に想いをはせる。

夏！、いよいよ盆踊りの季節。土地の人は「１年の区切りがお正月じゃなくて、盆踊りを踊り終ってはじめて、１年がこう過ぎたと感じる」という。それほど盆踊りは、この地の人びとにとって待ち遠しい行事なのだ。

西馬音内の盆踊り。それは実に幻想的で優美、そして深い想いがこもっている。編笠や彦三（ひこさ）と呼ばれる黒地の頭巾ですっぽりと顔をかくし、粋な絞りの藍染め浴衣や渋いなかにもあでやかな端縫（はぬ）いの衣裳を着けて、流れるようにゆるやかに踊る。そのしなやかな手振りに、恐る恐る人波をかきわけて歩むおぼこ娘のときめきがあり、かと思うと、くっきりと白く匂う衿あしに豊艶なとしま女の色っぽさがこぼれる。それに、勇ましい祭り囃子とやぐら周りのにぎわい、かがり火がともされた街路のたたずまい、そのすべてが、まさにみちのくの情緒豊かな一編の夏の風物詩である。

この盆踊りは、慶長５年に没落したこの地の領主・小野寺家の亡霊を慰める亡者踊りを踊ったのがはじまりだとの言い伝えとともに、700年ほど前から始まった豊年踊りの流れをくむものとの説があり、その由来は定かではないが、いずれにしても、先祖をしのび、豊作を祈る人びとの願いがこめられ、永い歳月を踊り継がれてきたものである。

盆踊りの３日間は、再会の日々でもある。都会へ出た若者たちも、他郷へ嫁いだ女たちも里帰りする。久しぶりに触れるふるさとの空、ふるさとの温もり……。たとえ遠くに離れていても、ふるさとへの想いはかがり火のように心に焼きついている。そして、それぞれ自慢の端縫いの衣裳を着て踊る。

端縫いの衣裳。それは、西馬音内盆踊り特有の美しいおどりきもの。何種類もの端切れ布を組み合わせ、思い思いに配色をこらして縫いあげる。端切れはただのはんぱぎれではない。母や祖母の若き日の形見として残った着物をほどいてつくる。その布ひとつひとつには想い出があり、秘められた夢がある。そして、それを自分の肌に着けて、ともに踊り、踊りながら追憶にふける。

活気にあふれ野趣に富んだ「音頭」と、しみじみとした哀調味ある「がんけ」。この地口に合わせた美しい踊りは、夏の日の３日間人びとの心を魅了し、夜の更けるまで続くのである。

時が移り、町がその姿を変えてしまった今日でも、このような人びとの踊りへの想いが、西馬音内の盆踊りを貴重な民俗文化財として守り育てているのである。

母から娘へと久しぶりに触れる郷土の温もり……

**音頭**

〈ヤートセー　ヨイワナー　セッチャ
ドン　ドッコイナー、ナ
（ホラ）ドンと響いた　櫓の太鼓に
集まる踊り子は
（アーソレソレ）
馬音の流れに　産湯をつかった
きれいな嬢っこたち
（キタサカサッサ　ドン　ドッコエナ）

**がんけ**

〈ヤートセー　ヨイワナー　セッチャ
ドン　ドッコイナー、ナ
がんけ踊って　知らねでいたば
夜明け烏が　阿呆というた
（キタサッサ
ノリツケハダコデシャッキトセ）

作　品　名：シリーズ〈民俗芸能の心〉
「端縫いのゆめ」
―西馬音内盆踊り―
(35㎜/カラー/31分)

企　　画：㈶ポーラ伝統文化振興財団
製 作 協 力：㈱読売映画社
監　　修：高橋秀雄

製作スタッフ：製作・樋口幹夫／六鹿英雄
脚本・監督・曽田　信
撮影・大山照夫／撮影助手・浦山和夫
照明・小林　宗／日達諭一／榊枝義広
編集・梶田敏子
音楽・原　正美
録音・川端敏彦
ナレーター・高田敏江

協　　力：文化庁文化財保護部
秋田県雄勝郡羽後町
西馬音内盆踊保存会

公益財団法人 ポーラ伝統文化振興財団
http://www.polaculture.or.jp
〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-2-10 ポーラ第2五反田ビル
TEL.03-3494-7653　FAX.03-3494-7597

(P・MG4-©3,000 96・7)